H23健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会　フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・地域住民や漁業協同組合の意向などが強く影響し、施業集約化を除いてプロジェクトの進捗が思わしくありません。着実なプロジェクトの実践、周辺森林におけるプロジェクトの成果発揮に向け、速やかな改善行動を期待します。

◆成果に関するアドバイス

・丸太組は、土中で10年、15年掛けて丸太が腐朽し土に置き換わる際、灌木などの植生が生え根が張り土の移動を押さえることを前提に施工することや、車輌の荷重を直接支持する工法ではないことなど,、正しい理解のもとでの施工に務めて下さい。
・ヘアピンカーブの路盤が谷側へと下がる横断勾配となっており危険です。また盛土の土羽尻には枝条が積み上げられ、将来、路体の崩壊に繋がることが懸念されますので、施工技術の向上に努めて下さい。
・作業道が九十九折り線形となっているため、起点近くの林分では恐らく面積の1／3は皆伐状態になっていると思慮されます。また残存木には傷が多く、しかも被圧、曲がり、二股等の利用価値の低い木も残置されており、将来を期待できる木が何本も残らないことを懸念します。今後、こうした道づくりを抑制するためにも、道づくりの費用対効果を明確に見極めてから事業実施に務めて下さい。

◆効率性に関するアドバイス

・作業道は自然の地形を上手く活用することが必要です。これにより不要なコストをかけることなく長期的な利用が可能な耐久性のある作業道を開設し、また必要最小限の延長で目的を達成できる作業道開設に心がけて下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・作業道開設に関する費用対効果を判断するため、今回の作業道開設で生じた支障木伐採と間伐による木材生産量を調べ、次回の間伐による木材生産量とを比較して、どの程度の生長量があるのか把握し、補助金が有効に活用されているかどうか把握して下さい。

◆発展性に関するアドバイス

・残った木の多くに傷がついていますが、幸い傷の付いていない樹冠長が1/3程度ある将来木になりそうな木も残っていますので、将来に残す木を決めて育てる、森づくりに取り組んで下さい。
・表層土壌を評価した結果、表層土には分解前のL層があるものの分解後の土壌はほとんど無く、雨水を貯留出来ない状況にあります。表層土壌は岩部のクラックを通じて流亡していることが確認出来ましたが、クラックから流亡する土壌の色が黒色から黄土色に変化すると、斜面崩壊の危険性が一層高まった状態にあると判読できます。こうした観察手法を踏まえ、今後は、出水状況（流出箇所と流亡土壌の色）と残された表層土壌の粒度を見て、崩壊の危険性に留意した施業実施を期待します。
・なお、崩壊の危険性が高い場所では、法面勾配をさらに緩くする対策や、林分からの土壌流出を止めるために、出来る限り流末部分に沈砂地を設ける等の対策も考えられます。常に水の動きを把握することが大切であると認識し、今後も森林づくりに励んで下さい。

◆総括に関するアドバイス

・まず始めに考えるべきは、「将来、この山をどうしていくのか」というビジョンを持つことです。また地元の人が現場を見てどう感じるかだけに留まらず、万一、開設した作業道が崩壊し、一般道の通行不能や濁水の発生などによって、下流域の人たちの暮らしに大きな影響を及ぼすと、この地域での森づくり自体を頓挫させることに直結します。常に、こうしたことに細心の注意を払って道づくり、森づくりに取り組んで下さい。
・採算を確保することは大切ですが、それと同等以上に、環境保全機能を高め、地域のためになることを理解してもらえる林業経営を目指して下さい。

◆フォローアップ委員会の開催状況　　平成23年12月22日

日　　時：　平成23年11月17日（木）
場　　所：　関市板取川浦地内
参加委員：　三島 喜八郎　岐阜県森林組合連合会　代表理事副会長
　　篠田 成郎　　岐阜大学総合情報メディアセンター　教授
　　湯浅 勲　　日吉町森林組合理事兼参事
対　　象：　王子森プロJV（王子木材緑化（株）／中濃森林組合／（株）カネキ木材

プロジェクトの概要説明

間伐5年後の土壌状況

林分の被害状況（雪害）

急斜面での
九十九折り線形

丸太組施工実績の
改善点について指導

連続的に施工された
丸太組工

現地を踏査しつつ路網
配置に関するアドバイス

土羽尻に残置された枝条

木材生産状況

H23健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会
委員長　　三島　喜八郎